
妻が負担に感じる「名もなき家事」が話題に！動画視聴回数 160 万回突破！

女性活躍推進のために、家庭での働き方改革まで提案

～家族で家事をシェアする「家事シェアハウス」見学会を7月全国 100 ヲ所で開催～

大和ハウス工業株式会社（本社：大阪市）が2017年5月14日の「母の日」に合わせて、全国の「同居のお子様をお持ちの共働き夫婦」を対象に実施した「家事」に関する意識調査が大きな反響を呼び、妻が負担に感じる「名もなき家事」がTV番組やSNSで話題となりました。調査によると、「家庭での家事分担における夫婦の比率」について、夫は「夫3割：妻7割」で家事を担当していると回答する一方で、妻は「夫1割：妻9割」と回答する等、家事の分担意識に大きな差があり、そのことが妻のストレスに繋がっていることが分かりました。

今回、当社で働く女性社員（1,019名）に同様の内容で調査をしたところ、職場で女性活躍推進を進めているにも関わらず、家庭内では家事負担を強いられる女性が多く存在している実態が明らかとなりました。

▼20代から40代の共働き夫婦の“家事”に関する意識調査

<http://www.daiwahouse.co.jp/column/voice/20170524134636.html?page=kaji1707>

▼家事シェアハウス WEB サイト

<http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/lifestyle/kajishare/index.html?page=kaji1707>

大和ハウス工業は同様の悩みを持つ女性社員が、そうした家事や暮らしの悩みを少しでも解消できるよう、新しい住まいづくりのコンセプト『家事を分担するのではなく、家事をまるごと家族全員で「シェア」する』ことを考え、家事負担を軽減するための工夫やアイテムを盛り込んだ戸建住宅「家事シェアハウス」が誕生。好評を得たことから、7月15日（土）～7月17日（月・祝）の3日間、全国100カ所で見学会を開催することになりました。（<http://www.daiwahouse.co.jp/bunjo/fair/index.html?page=kaji1707>）

また、家事に悩む共働き家族の円滑な家事参加を応援する目的で制作した動画「SHARE HEART / 家事をシェアすることは、想いをシェアすること」は公開から2ヶ月でYouTubeでの視聴回数が160万回を突破！家族で家事のことを考えるキッカケとなることを期待しています。

▼「SHARE HEART / 家事をシェアすることは、想いをシェアすること」WEBムービー

大和ハウスグループ公式チャンネル (https://youtu.be/OgaBU_TecVY)



■大和ハウス工業女性社員の「家事シェア」意識を調査

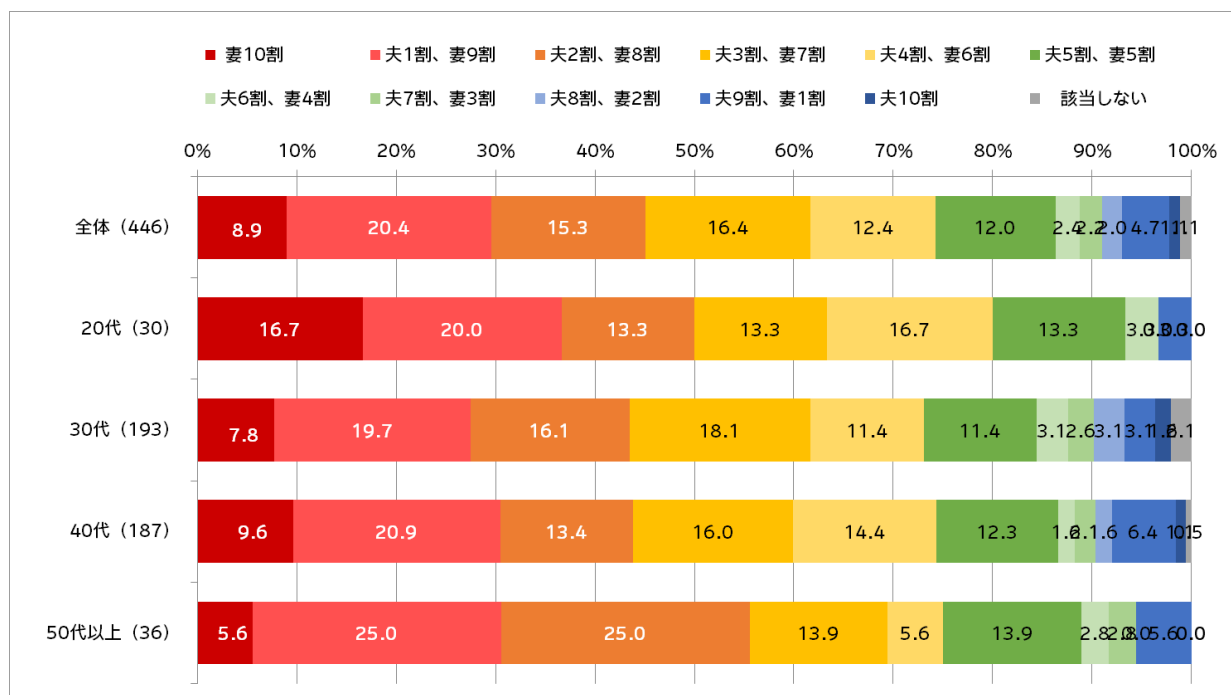
調査対象：大和ハウス工業で働く女性社員（1,019名）

調査期間：2017年6月12日（月）～6月26日（月）

●家事負担実態

既婚で働く女性社員に家庭での家事負担の割合を聞いたところ、最も多い回答は「夫1割 妻9割」（20.4%）、次が「夫3割 妻7割」（16.4%）と回答。一般の共働き夫婦を対象にした調査結果と比べると、夫の家事参加割合はやや高いものの、6割以上の家庭において「妻の家事負担が7割以上」となっており、共働きでも家事負担が大きい実態が明らかになりました。

あなたの家庭での家事分担の割合はどの程度ですか。（ひとつだけ）

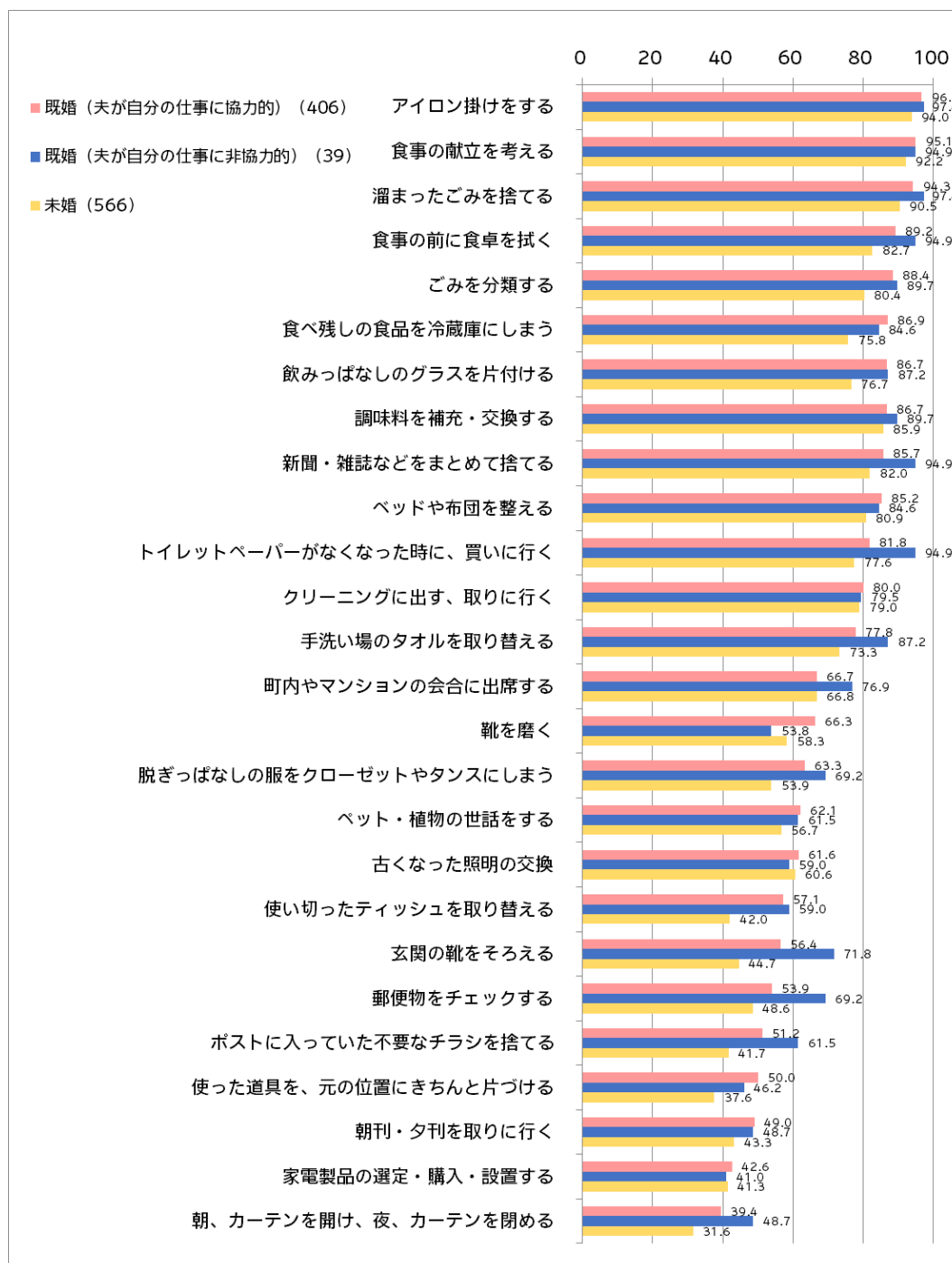


●家事認識

一般的にどこの家庭でもやっている家の仕事について「家事だと思うか」を聞いてみました。「アイロン掛けをする」「食事の献立を考える」「溜まったごみを捨てる」など、毎日やらなくてはいけない仕事については9割以上の方が家事だと認識している状況で、頻度が少ない仕事ほど家事認識に差が出る結果となりました。

自分の仕事に対して夫の理解が少ないと感じている人ほど「新聞・雑誌をまとめて捨てる」「トイレトペーパーがなくなった時に買いに行く」「手洗い場のタオルを取り替える」「玄関の靴を揃える」「郵便物をチェックする」といった「名もなき家事」を担っていることがみてとれる結果となりました。

あなたは以下の作業を家事だと思いますか。(いくつでも)



●配偶者にもっとやって欲しい家事とは

「学校役員の会合」「町内会の行事」「お米など重たいものの買い物」など、夫が気付いていない「名もなき家事」をやって欲しいという声や、夜遅くなるときには「食事の支度」「食器洗い」など食事に関する仕事をシェアしたいという共働きならでの悩みの声が多くみられました。また、子どもとの触れあい・しつけという意味でも、率先して家事を手伝う姿勢を見せて欲しいという要望もありました。

あなたは配偶者に現状以上にやって欲しい「家事・育児」はありますか。(自由回答)

配偶者に現状以上にやって欲しい家事	年代
水回りの掃除、ゴミ捨て(ゴミ箱の袋の交換)、洗濯関係、自分の部屋の整理整頓。* 私から言わずともやって欲しい。一つの家事に対して、一連の作業をこなして欲しい。(結局、最後は私が介入しないといけないため。)	20代
自分のやり方と比べてしまって、かえって不満に思ってしまうので特にありません。	20代
共働きなので、食事の支度分担をしてもらえるか、食器洗いをしてもらえるか、食事に関する仕事を半分にした	20代
「決まり」ではなくていいので、気が向いたときやどうしても家事が難しい時に手伝ってくれたら嬉しいと感じます。* 基本的に自分が家事をやりたい派なのでメインは自分でいいと考えています。	20代
まだ乳幼児なので、泣かずに見ておいてくれるだけで十分。(でもそれが出来ない。)* それさえできれば、その間に他の用事(家事)ができるのに。*もともと、私が子どもをみて家事の方をやらせようというのがうちの場合はないので・・・)	30代
子どもの勉強を見てほしい。その間に家事の時間が生まれるので、やってほしいことは多々ありますが、男性の場合(当社社員は21時に帰宅できるようになりましたが)深夜に帰ってくるとなかなか家事をやらせようとしても難しいのが現状です。家事シェアハウスは早く帰れる旦那さんの方にのみ当てはまるところもあるのかな?でも男性に考えてもらえるいい機会だとは思っています。	30代
学校役員の会合、町内会の行事(廃品回収、清掃活動)*塾の宿題を見る、子どもの試験勉強、ゴミ捨て、まどふき* バルコニーの掃除*お米など重たいものの買い物、布団干し、トイレ*お風呂掃除	30代
帰宅時間が間に合えば、お風呂に入れて欲しいです。復職にあたり、タイムスケジュールを作成し役割分担をしたので、私の場合は夫はとても家事育児に協力的だと思います。1人で全てを行うことは無理なので、何回も話し合い時間をかけて納得しました。	30代
食器の洗い物をしてくれるのですが、気づかないのか洗い残しがあって結局私が洗い直しをしています。	30代
しつけという面で、子どもと一緒に家事をすること	30代
残業が多く、子どもが起きている時間に帰ってこないで、早く帰ってきて子どもとふれあってほしい。* 他の一人でいつでもできる家事は比較的にやってくれているし、食洗機などで代用できるので、わざわざ配偶者にやらせようする必要はない。 子どもと遊ぶためには、起きている時間に家にいる必要があり、仕事へ影響がでるためなかなか実践するのが難しい。	30代
何かをやってほしいといわれる前に、何をやらないといけないのか考えて動いてほしい。* 同じことを何回も頼むのは、自分がやらなければならない家事を依頼しているようで気持ちが疲れる。	30代
子どもの体調不良時に自分が会社を休んで看病しないといけないので、時々可能な時は代わりに休んで看病してほしい。	40代
我が家の場合は、中途半端に家事を手伝われて「やってる感」を出されても腹がたつので、家事労働を時給850円程と過剰し労働時間を算定し主人のほうからプレゼントや外食代を出してもらうようにしている。給料が出ると思えば自分でも家事が当たり前とおもえて精神的に楽である。	40代
本当は全部やって欲しいのが本音です。 しかし、出勤は家を出るのが朝6時過ぎ、帰宅が23時・24時になってしまう主人に上記の内容をお願いすると、限定されてしまいます。	40代
あきらめてるので、やってもらいたいことはないです。家事をしやすくしてくれる配慮だけほしいです。(お風呂には毎日ちゃんと入るなど)*	40代
家の事、家族の事を全てに関わって自発的に取り組んでもらいたい。何回も言い続けているが、実際は殆ど変わっていないので、結局自分がやっけてしまいます。 その代りに子ども達には自分の事は自分でできるようにしています。将来の自分の為に身に付けてほしいです。	40代
正直、私自身「家事」とは意識せずにしている細々とした作業があり、今回改めてその様な作業の多さに気づきました。 それと同時に、その様な作業については当然のように私がしていますので、協力して欲しいと思います。* 共働きなので、項目を限らず毎日の家事は時間に余裕のある方がするというのが理想です。	50代
今もやってもらっていることがけっこうあるので、これ以上となると食事を作ってもらうことくらいになります。*	50代
配偶者の年齢的に家事、育児は女性がするものと思っているようです。勤務地が遠く帰りが遅い私を見て、洗濯、掃除等はしてくれるようになりましたが、やはり食事の用意をしているときには食事の用意を手伝ってくれれば気分的にもいいと思います。	50代

●家事をシェアしてもらうための工夫

各家庭に存在している「名もなき家事」について、家族で話すことが大切だという意見が多くみられました。ルールを決めるだけでなく、家事をシェアすることで得られる家族の時間や居心地のよい空間を覚え込ませること、家事をしてくれた相手に対して感謝の気持ちを持つことが、家族みんなが自発的に家事を行う習慣につながるのだと思います。意識せずに片付けができるような動線設計や、収納をわかりやすくすると、家づくりを工夫するだけで家事負担を減らすことができるといったアドバイスもみられました。

あなたは配偶者に「名もなき家事」を自発的にしてもらうためには何をすればよいと思いますか。(自由回答)

配偶者に「名もなき家事」を自発的にしてもらうために何をすればよいか。	年代
自分は家事だと思っていても配偶者がその負担に気づいていなかったりと、意識の差が問題だと思います。どのような家事があって、どう分担するか「見える化」することが必要だと思います。	20代
自分がやらないこと。飲んだ後のグラス、ぬぎっぱなしの服を、代わりに片付けた瞬間に、こちらに「負担」が生じて、「名もなき家事」になっていると思います。相手にやってほしければ、やりたくなることを我慢(?)して、徹底してやらないことだと思います。やってくれないと自分でやるしかないです。	20代
家の中の小物、服などすべてのものに居場所を作ることが必要だと思う。* 「名もなき家事」の原因となっているのは、置き場所がないものが多い気がする。たとえば、ちょっと外出するのに履いた靴下、まだ洗う必要はないし、分かつころにちょっと置いておこう。こういった居場所のないものに対しても、居場所をつくる仕掛けが必要なのではないか。*	20代
すっきり片付けて汚たくない空間を共有する。* 自分も住んで、管理する役割を負っているということを自覚させるために、手伝ってほしいと伝え、家事を日常的に家族みんなが行う習慣をつける。	20代
相手がしてくれたことに対して、感謝の気持ちをいつも持ち、伝えること。* お互いが感謝の気持ちを伝え合うことが、小さな家事でもしてもらえることに繋がるのではないかと考えます。	20代
「掃除」「洗濯」「料理」など、なんでもラベリングしてしまうと、ラベリングされていない作業が「家事」として認識されないと思うので、あまり分類にこだわりすぎない方がよいと思います。	20代
認識について話し合いを重ねる。ルールを決めるだけでなく、どうしてもらおうと私がうれしいと感じるかを毎回つたえて教え込んでいく。	20代
「名もなき家事」という言葉が世の中に浸透していかないと難しいと思います。 大和ハウス工業がどどんこの言葉を発信して広まっていくと、世の中の認識が変わり、自発的な行動につながると思います。	20代
頼んでもしない為、あきらめると自分に言い聞かせています。でもしてほしい気持ちもまだ出てくるのです。というループを延々と繰り返しています。* 自発的に…プラスそれが私が思うタイミングでしてもらえるとより余裕ができます。*素敵な方法を教えてください。	30代
名もなき家事の実態を知ってもらうこと。知らないからやらない事が殆どだと思います。たまに家出してみるとか(笑)* 以前ドラマで、自分では育メン夫だと思っているけど、妻からしてみたらダメ夫、というテーマのドラマをやっていて共感しました。* TVのCMでさらっと流れてたりすると、一緒に見て「そうそう！これこれ！」って言えるのになあ。*	30代
「名もなき家事」がどの程度のボリュームがあり、1日トータルで考えると、どの程度の時間を要するのかを理解してもらう必要が有ると思います。* 「名もなき家事」の存在に気がついていない配偶者は多いと思います。	30代
何かささいなことでもやってくれたら「ありがとう」と感謝の気持ちを必ず言葉に出して伝える。やり方が違っていても、あげ足を取るようなことはしない。* お互いを思い合えば、「名もなき家事」は自発的に自然とできるようになる。夫婦間の問題であり、モラルだと思う。* おそらく仕事ができない人は「名もなき家事」もきつと気が付かないと思う。	40代
名もなき家事は「しつけの問題」な気がします。ですので、子どもと同様配偶者にちまちなま注意しています。物を元の場所に片づける、靴をそろえる、磨く、物品の補充、料理の補助はお箸の持ち方と同じで小さいころから親から言われて手伝わってきたと、意識せずできているような気がします。	40代
家事というものは子どものお手伝いのように、係りに分けてするものでもないことを、自分で考えてもらう。そもそも独身時代に一度、一人暮らしをすべきた。* 私が出産で家に帰った時、後産で苦しむ私に、実父が「洗濯物をお母さんがたくさん干してて可哀想だ(娘やれと暗に)」と言ってきたので、 「じゃあ、お父さんがやれば？」と伝えると、その発想は全くなかったらしくびっくりしていた。翌日から今まで十三年近く、洗濯物を干す係りを父がやっている。*	40代
意識せず、できているような自然な配置。物の定位置を決める。片づけの法則にあるような、ぎゅうぎゅうにせず空間を残すなど。	40代
分かりやすく整頓できる(ルール付け)収納があれば感じる。	40代
家事作業が楽しくなる仕組みや、別々の家事作業もつながる動線が確保出来るとうよいと思います。	40代
声掛けなどしていましたが、10年を機に諦めました。	30代
やさしくおだててお願いする	50代

■女性活躍を応援する組織づくりを推進

女性活躍推進が国家プロジェクトとして展開される中で、当社においては約10年前の2007年から人事部内に専任組織を設置し、女性活躍推進に積極的に取り組んできました。

ダイバーシティ推進を進めるにあたって大切なことは「これは男性の仕事、これは女性の仕事、これは工事担当者の仕事、これは営業担当者の仕事」というように性別を含む『役割分担意識』をなくし、ゼロベースで考えることであると認識しています。例えば、元々、営業や工事担当者(現場監督)をしていた人を配属するものだと考えられていた「アフターサービス点検員」の仕事は、現在、事務系一般職入社であっても、本人の適性や適切な育成環境を会社側が整備することで、キャリアを構築するための職種転換先として捉えられています。

家のことも同じと考え、『男女平等』という「権利」や「主張」みたいな形で捉えられてしまうように感じますが、「性別による役割分担意識の思い込み」が両者にあるのだと思います。復帰面談時に総合職入社でキャリア意識の高い女性であっても、家の中での自分のポジションを守ろうとする傾向があり、実際に両立が始まると一人で苦しみます。また、男性の育児参画が進んでも「保育園への送りは夫、迎えは妻」というように性別による役割意識が知らず知らずできあがることで、男性側の長時間労働是正につながりにくく、結果、女性側の両立困難な現状は変わりません。

さらに今回、私たちが注目した名もなき家事の大半は家庭生活の中での「マネジメント」です。食材・消耗品の在庫管理や、スケジュール調整、子どもの予防接種の管理、旅行などでの予約・段取りなど。夫側は会社ではマネジメントを自分の仕事(役割)として捉えることができますが、家のこととなると途端に「マネジメントをする」という意識がなくなるようです。管理職になることを拒む女性社員には「家のマネジメントができるんだから、会社のマネジメントもできる」と言って応援しています。

このように女性社員の更なる能力開発と女性社員を育成する環境づくりを目指すことによって、女性社員が日々悩んでいた『家事負担』というテーマから、『家事負担を軽減させる家づくり』という新たなアイデアが生まれ「家事シェアハウス」が誕生しました。社内アンケートからも浮き彫りになった「名もなき家事」の負担の多さが解消され、社会での働き方改革だけではなく、家の中の働き方改革に繋がることを期待しています。

■「家事シェアハウス」全国一斉見学会開催

家事を“家族ゴト”と考えて、分担するのではなくみんなでシェアする。そんな新しい家族の暮らしを支えるのがダイワハウスの「家事シェアハウス」。思いやりとゆとりが生まれて、家族がもっと触れ合える。そんな多彩なアイデアがここにギュッと詰まっています。

▼「家事シェアハウス」全国一斉見学会(2017年7月15日(土)~7月17日(月・祝))

<http://www.daiwahouse.co.jp/bunjo/fair/index.html?page=kaji1707>